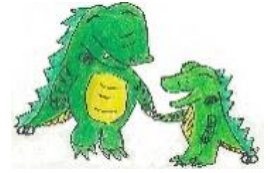




和邇小

# ニューズレター

NO.6



2023.10.10 文責 加藤



最近、子ども達の言葉が気になってきています。自分の行動を振り返る時でも「嫌」「うざい」「やばい」で終わってしまい、その奥にある感情や認知を尋ねても言葉が出てこないことがしばしばあるのです。

「言語力が低いな。」と思うのです。日常も少ない言葉で会話が成立していることがあります。正確に気持ちや思いは伝わっているのかな。なんて心配になります。

7月に、上学年を対象にNIT情報技術推進ネットワーク篠原嘉一氏をゲストティーチャーとしてお招きしインターネットモラル授業を行いました。保護者の方も希望された方は参加していただきました。

その中で、最近の子ども達はゲームやyoutubeを通して言語を覚えているという話がありました。コロナ感染症で外出することが少なくなり、家でゲームやyoutubeを見る時間が増えたことが原因の一つです。言語をどんどん習得していく時期の子ども達が暴言や汚い言葉を身近に感じ、実生活の中でもその言葉を使っていることが多いと話されていました。短い刺激的な言葉は頭に残ります。何度も聞くと、よくある日常の言葉と認識し実生活の中で使っていきます。そして、短い言葉で表すので、本当の気持ちやその気持ちのもとになるものに気づけていないのです。

「うざい」の後ろには「自分ももっと話したかったのにさえぎられて胸が立った」という認識なのか「自分ももっと話したかったのにさえぎられて悲しかった」という認識なのか。自分の言葉で話せると自身を認識することもでき、相手にも伝えやすくなり、ずっと生きやすくなると思うのです。

この前話を聞いた、早稲田大学教育心理学専門の小西好彦先生には、脳の仕組みから教えていただきました。脳は以下の順に発達するそうです。

- ①脳幹（血圧上昇、低下・心拍数・発汗など、生理的反応をつかさどる脳：爬虫類脳ともいう）
- ②大脳辺縁系（情動、衝動、記憶などつかさどる脳：古代脳、動物脳ともいう）
- ③大脳新皮質（知的活動や言語、思考をつかさどる脳：新哺乳類（霊長類）脳ともいう）

大脳新皮質は哺乳類が持っている脳です。他の動物は大脳辺縁系までしか育っていません。すると、こんな行動になります。

たたかれた → 危険 → たたき返す

しかし、私たち人間は成長するにつれ、コントロールできるようになってきます。

たたかれた → 嫌だ → 嫌だったことを伝え相手

に行動の改善を望む

このような流れになるのではないのでしょうか。しかし、これは人間なら誰にでも勝手にできることではなく、原始的で衝動的な大脳辺縁系を知的な大脳新皮質がコントロールできるように成長と共に学ばなければいけないと話されていました。

では、何を身につけないといけないのでしょうか。それは、①感情の分化②感情のネーミング③言語力（語彙力）だということです。生まれた時には感情に名前がついていません。しかし、「痛かったね」「悲しかったね」など周りの者が教え感情に名前がついていきます。そして、**様々な言語（語彙）を覚えて自分自身を理解していくことで原始的な脳を抑えコントロールできるようになる**のだそうです。

言語（語彙）は自分を理解し自身をコントロールするためのツールなのです。

もちろん、言語力が低い子達ばかりでなく、びっくりするほど言語力が高い児童もいます。昔、上手に言葉を使いこなす子の親にどのように子育てされているのか聞いたことがあります。その家は小さなころから怒らなくてはいけなかった。「なぜダメなのか」「あなたは思うのか」「どうしてほしいのか」など言語化してきたということです。私たち子どもと関わる大人の姿勢で子どもの言語力を高められます。

よい環境を子ども達に提供し、言語力を高め自分自身を見つめ認知し幸せに生きていく足がかりとなってほしいと切に願うのです。



## 【変更】11月の教育相談日

11月10日（金）が、無くなります。代わりに**11月8日（水）**と**11月22日（水）**に来ていただけます。よろしくお願いします。